



サンふじと王林を手渡す工藤組合長



お礼のお手紙

りんご消費拡大へ おいしさ知って笑顔いっぱい

～九州地方でりんご贈呈式～

当JAでは、りんごの消費拡大に向け、全国の青果会社を通じて、自治体・小学校・保育園などにりんごを寄贈し、おいしさをPRしている。12月4日から7日まで、工藤友良組合長と久米田喜代寿販売担当常務らが九州地方を中心に訪問。りんごを貰った子どもらは笑顔でいっぱいであった。

りんご消費に感謝の気持ちを込め、今後も消費拡大へ向け贈る活動を展開していく。



りんごを手に笑顔の児童

JA津軽みらい産りんご食べて

～テレビで消費宣伝活動～

12月18日、浦和中央青果市場株式会社がスポンサーとして参画する埼玉テレビの情報番組「マチコミ」のコーナー内でりんごをPRした。

同番組は、関東地方の約860万人が視聴でき、PR効果は大きい。今後もPR活動で有利販売につなげる。



番組出演でPRするJA職員

エンディングノートで輝く人生を

～終活セミナー～

12月22日、本店で終活セミナーを開き、37人が参加した。

弘前市専求院上級終活カウンセラーの村井麻矢さんを講師に迎え、人生をよりよく生きるため、エンディングノートの書き方を学んだ。村井さんは「エンディングノートは、残される家族や友人のために書くもの。自分の判断能力がなった『もしもの時』に、身内が判断しやすいように、友人などの連絡先や葬祭の方法、延命措置をするかどうかなど記載する。書きやすいように厚くないノートを選ぶこともポイント。書き終えたノートは必ず誰かに知らせ、見つけやすい所に置くことも大事」と『家の光12月号』の付録「わたしノート」を活用して説明した。

70代の男性の参加者は「いつどうなるか分からない。わたしノートは市販のエンディングノートより書きやすいので、さっそく書いてみたい」と話した。

2月26日には常盤基幹支店で2回目のセミナーが開かれる。



エンディングノートについて説明する村井さん